



「2023年度営業関係施策(その1)について」

首都圏本部より提案を受ける

4月14日、首都圏本部より「2023年度営業関係施策(その1)について」の提案を受けました。

会社は、『グループ経営ビジョン「変革2027」』、「駅の変革」のスピードアップに向け、効率的でより生産性の高い業務執行体制を構築し、当社グループの持続的な成長につなげていくために、駅の運営体制を見直す』というものです。実施内容等は以下の通りです。

■実施内容及び実施日

実施箇所	実施内容・提案箇所体制増減	実施日
新橋営業 統括センター	・販売体制の見直し(浜松町駅出札閉鎖) ・管理体制の見直し 管理→変形等-1/一般→変形等-2・交代-1	2023年9月1日
渋谷 営業統括センター (2023年6月1日発足予定)	・販売体制の見直し (渋谷駅ハチ公口 出札閉鎖) 一般→変形等-1・交代-2	2023年10月1日
池袋 営業統括センター	・販売体制の見直し (池袋駅南出札閉鎖・中央出札窓口増加) 一般→変形等-5・交代+2	2023年7月1日
	・池袋駅南券売機業務の委託 (委託先:株式会社JR東日本ステーションサービス) 一般→変形等-1・交代-2	2023年10月1日

間内改良工事
終了後

※工事日程等によりスケジュールが変更となる場合がある。

■その他

施策実施に向けて教育・訓練等の必要な準備を進めていく。

■参考情報

業務委託駅の販売体制の見直し…恵比寿駅出札閉鎖(2023年9月1日実施予定)

JREU TOKYO 業務部速報



2023. 4. 14 No.051

発行：JR東労組東京地本 業務部

「2023年度営業関係施策(その1)について」

首都圏本部より提案を受ける②

■ 特徴点

組合：浜松町駅の出札廃止に伴い訪日外国人の対応は大丈夫か？

会社：外国人のお客さまが特段困るということはないと想定している。浜松町駅はどちらかというのご案内がメイン出札窓口が外国人のお客さまで混雑している認識はない。MVで対応可能と考える。

組合：出札廃止・縮小の目的はコストダウン(人件費削減)の占める割合が大きいのか？

会社：社員数が減るわけではない。コストダウンは主たる目的ではない。

組合：チケットレスは確かに便利だが、携帯電話端末故障やサーバーダウンなど新たな課題とリスクが発生してくる。現場の社員が課題に向き合いながら業務に就けるようになってきているのか？リスクに対応できるのか？

会社：便利なものはこれからも積極的に推進していく。リスクは相対的には下がっているが、リスク管理は変わらず行っていく。

■ 組合からの主張

- 出札窓口の閉鎖や業務委託は、**現場で働く社員からすればコストダウン(人件費削減)との認識だ。**認識が現場と離れている。**説明は丁寧に行ってほしい。**
- **データに現れない現場実態を把握しているのか？**駅ではMV案内をしているが**発車間際の対応では「時間がない」「海外のカードは暗証番号の桁数が違う」**などの理由で、やむを得ず無札での乗車を案内することもある。**データには反映されない。MVにも限界はある。**
- 最近の急激な出札窓口の減少は、**お客さまから「出札窓口で購入」という選択肢を奪う**ことでMV購入やチケットレス化を押し進めているように感じる。

働く皆さんの率直な声・意見をお寄せください。

JR 東労組東京地本は組合員、社員が
本当に働きやすい職場づくりを目指します。

